

福井における 介護再生へのとりくみ

福井・介護老人保健施設あじさい 事務長 佐野 誠



はじめに

介護保険制度がスタートして10年が経過しました。この間の制度改悪によって利用者には利用料負担増・サービスの利用抑制が強いられ、介護事業所では度重なる介護報酬の削減等により深刻な経営難、人手不足にままわれています。このような中、私たちの住む福井県でも、妻の介護疲れにより元火葬場の焼却炉で、80代夫婦が焼身自殺をするという、痛ましい事件が起きました。高齢者の孤独死、福祉学校の定員割れや学校閉鎖、介護事業所の閉鎖など、地域の介護崩壊も進んでいます。この10年間の制度のゆがみで起こった介護崩壊路線をストップさせるためにも、福井民医連でも微力ながら介護ウエーブ行動を進めてきました。

福井民医連の介護事業の現状

私たち福井民医連の介護事業所は医療生協が運営するデイケア1事業所、デイサービス1事業所、単独短期入所施設2事業所、ヘルパー事業所2事業所、訪問看護2事業所、居宅支援事業所1事業所、小規模多機能施設1施設、そして社会福祉法人寿の会が運営する老健施設1施設と併設デイケア1事業所です。主に介護保険制度施行時期の1999年老健施設開設以降に、各介護新規事業の展開が行われてきました。福井民医連の全体職員数は327人、そのうち介護事業所職員は160人の約半数となっています。介護事業所職員の半数以上は青年職員であり、このような状況の中で青年職員が中心となって福井での介護改善運動を展開

しています。

福井民医連での介護ウエーブへのとりくみ

2008年から現在まで福井の介護ウエーブ方針を年度ごとに提起し、県連介護委員会の中で、この間の介護情勢を語り合い、介護改善への思いを一致させてきました。青年介護責任者からは職員が一致団結できるよう、「さあ、手をつないで声に出そう！福井の介護魂でBigウエーブを！」と介護改善運動のスローガンをつくりました。また、何のために、誰のために介護改善運動を行うのか話し合い、介護ウエーブへの第一歩を進めてきました。さらに介護職員が中心となって講師を務め、毎年福井民医連全事業所での出前学習会を続けています。

2008年度の介護改善運動では福井駅前の繁華街で県連統一介護改善街頭宣伝行動を行い、福井民医連史上初の全体の3分の1の職員が集まり、大きな介護ウエーブを地域へ発信しました。人が少ない中、手作りの宣伝用ティッシュペーパーを配りながら署名行動を行い、短時間で介護署名347筆も集まり、職員の運動への盛り上がりと確信に繋がる行動となりました。2008年度の介護署名数は地域への思いを短期間で集め、7500筆を超える署名到達の成果をあげています。このとりくみもあり、介護改善街頭宣伝行動が定着し、毎年定期的な地域への介護改善アピールが行われています。

つるが地区では利用者家族や組合員、地域の方々から介護情勢と現状を知ってほしいと「介護の日のつどい」を開催しています。さらに地域の方々

に介護改善を訴え、共感してもらおうと介護シンポジウムを行っています。2008年度には県教育センターで参加者約80人の福祉関係者が集まり「介護改善を求める 介護ウエーブ集会」を開催しました。シンポジウムには福井市の介護行政も参加し、「行政に介護改善の思いよとどけ」を胸に秘め、福祉用具貸与事業所所長・施設介護職員・ヘルパー・ケアマネジャーの4人のシンポジストから介護現場での生の声が熱く語られました。「社会保障の充実を！」「未来の介護のためにも介護職の労働改善を！」などの声が会場の参加者の心に響き、会場からも「是非みんなで力を合わせて運動を大きくするべき！」など介護改善への思いや願いが多数発言されました。その熱気が冷めやらぬ中、県連介護委員長より「集会アピール」が会場に響く大きな声で熱く訴えられ、会場からは共感を呼び大きな拍手喝采、スタンディングオベーションの雰囲気のもと、地域への介護改善アピールが成功しました。

2009年度には県立図書館にて76人の福祉関係者が集まり「介護の充実を目指す！ 介護シンポジウム」を、誰もが必要なサービスを利用できる「介護の社会化」の実現をめざすこと、そして介護を支える介護従事者の生活を守り、生きいきとやり甲斐を持って介護に携わっていただける介護社会の充実をめざすことを目的として開催しました。

「笑う介護士、の袖山氏より「介護の楽しみと介護のこれから」についての記念講演の後、介護の現場から介護の充実ややり甲斐について交流するシンポジウム、を行いました。福祉学校・居宅ケアマネ・デイケア介護士から「介護の仕事はきつい上に賃金が低いというイメージが高校教員や生徒・家族に多く、介護をしたくても違う仕事に就く子が多い」「さらなる介護改善を行って魅力ある介護の仕事をアピールしてほしい」など切実な思いが訴えられました。講演最後には「一人ひとりの力を結集して、さらなる介護運動を大きなウエーブへ」と介護アピール宣言を行い、地域の参加者からは「介護職の労働改善を行ってほしい」「国のトップに本当の介護の

姿を知ってほしい」「介護の仕事にこれからはがんばろうと思った」などの声があり、元気の出る介護シンポジウムとなりました。

おわりに

この数年間、介護問題を率直に感じた介護職が立ち上がり、情勢の学習、署名・宣伝活動、介護シンポジウムの開催などを行い、地域への介護改善運動のウエーブが広がりました。青年介護職責者の成長が見られ、自分たちが中心になって介護ウエーブにとりくむことで、今回の活動や運動の経験が確信となり、今後の介護活動への自信に繋がっています。また、介護職として医療改善運動とは違った思いでの運動参加となり、それぞれが貴重な経験を積み、民医連職員としての成長や団結感が生まれています。この地域への運動があって2009年の介護報酬改定で初めてプラス改定実現に至ったことは職員の確信と自信に繋がっています。

しかし、まだまだ介護従事者の処遇の改善、利用者の利用料負担軽減や介護の充実には至らないような介護情勢です。2012年には医療と介護制度の同時改定があります。民医連介護・福祉の理念のもと、高齢者や地域の方々の介護改善のため、日本の未来ある介護をめざすためにも絶対に介護改善を前進させ、真の「介護の社会化」をめざし、今後も一步一步地域の介護再生に向けとりくんでいきたいと思えます。

